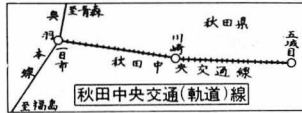


として発足し、昭和18・4に同県南秋田郡および河辺郡の乗合自動車業を統合合併して、秋田中央交通株式会社と商号を変更し現在に至る。



2 軌道線

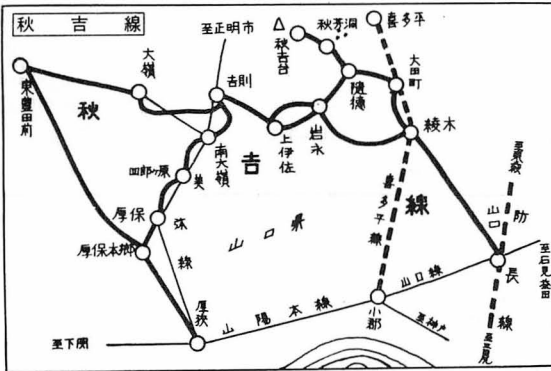
開業線 秋田県下の奥羽本線一日市駅に連絡し、一日市から五城目に至る延長3.8kmの単線、動力は電気、軌間は1.067mで旅客および貨物運輸を目的とする。大正9・8・13特許を受け、同11・4・21運輸開始した。

3 運輸概況

項目	昭和 28	29	30
旅客輸送人員(千人)	641	659	643
人キロ(千)	2,328	2,372	2,304
貨物輸送トン数(千t)	17	23	25
トンキロ(千)	104	87	96
旅客収入(千円)	8,922	8,729	8,544
貨物収入(〃)	4,161	3,631	4,027
運輸雑収(〃)	695	642	635
収入合計(〃)	13,778	13,001	13,206
営業費(〃)	11,200	12,340	12,455
営業利益(〃)	2,578	661	751
営業係数(%)	81	95	94

(志村幹雄)

あきよしせん 秋吉線 山口県山口市・同県豊浦郡豊田前村(東豊田前)間および同県美禰郡大嶺町(吉則)・同県厚狭郡厚狭町(厚狭)等を結ぶ国鉄自動車路線であって所管する自動車営業所は同県美禰郡秋吉村にある。



- 1 区間およびキロ程
 

山口・東豊田前	52km
綾木・岩永	8
随徳・秋吉台	5
岩永・上伊佐	6
吉則・厚狭	20
東豊田前・原保本郷	14

- 2 沿革
 

山口・吉則	昭21・11・8開業
随徳・秋芳洞	〃
吉則・東豊田前	昭26・4・7
吉則・厚狭	昭27・1・19
岩永・上伊佐	昭28・11・17
綾木・岩永	昭28・12・28
秋芳洞・秋吉台	昭29・10・21
東豊田前・原保本郷	昭30・8・10

3 営業範囲 山口・吉則間および随徳・秋芳洞間は旅客・手小荷物および貨物の取扱を、その他の区間においては旅客にかぎり取扱をしている。

4 使命 山口線と美禰線との鉄道短絡の使命を有するほか観光路線としての使命をも有する。

5 特長 沿線には有名な秋芳洞および秋吉台がある。秋吉台は山口県美禰郡秋吉村ほか6箇村にまたがる大平原でわが国最大の石灰岩台地(カルスト台地)である。この台地の周辺には40有余の鐘乳洞があり天然記念物に指定されている。(可野虎男)

あけよせん 明知線 中央線大井駅から南下して明知駅に至る25.2kmの線。中央線に属し線路等級は簡易線である。

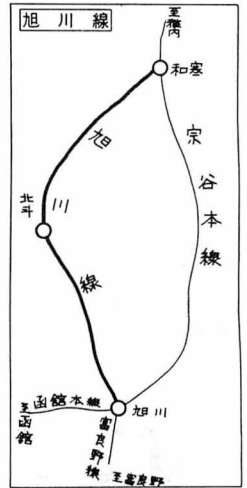
昭和8・5大井から明知に至る鉄道として大井・阿木間が開通、明知線と命名、続いて昭和9年明知まで全通したものである。またこの線は東海道本線岡崎付近および飯田線浦川付近へ結ばれる建設予定線の一部である。(森 徳寿)

あこうせん 赤穂線 山陽本線相生駅から赤穂を通り日生駅に至る22.1kmの線。山陽線に属し線路等級は甲線である。

昭和26・12相生から赤穂市を経て西大寺に至る鉄道として相生・播州赤穂間建設、赤穂線と呼ぶこととし、昭和30・3日生まで延長した。

この線はさらに延長して岡山に至る建設線の一部をなすもので、これが全通すれば現在の山陽線相生・岡山間に比較し人口密度の高い海岸線を通りいっそう価値ある線となる。(森 徳寿)

あさひがわせん 旭川線 函館本線の旭川駅を起点とし、北斗を経て宗谷本線と寒駅を終点とする国鉄自動車路線で、これを所管する美瑛自動車営業所を北海道上川郡美瑛町に、また旭川支所を旭川市春光町に設置している。



- 1 区間およびキロ程
 

旭川・和寒	37km
-------	------
- 2 沿革
 

旭川・和寒	昭27・9・1開業
-------	-----------
- 3 営業範囲 旅客・手小荷物の運輸営業を行っている。
- 4 接続駅 旭川、和寒。
- 5 使命 旭川周辺の開拓促進をはかるために開設された路線である。降雪が多いので和寒知遠別間は例年11月中旬から翌年5月上旬頃まで運転を休止する。(福田幸市)

あさひがわてんききどう 旭川電気軌道

1 事業者の概要

名称 旭川電気軌道株式会社、本社 北海道旭川市四条通、資本金 7,200万円、おもな事業 軌道業のほか一般乗合旅客自動車運送事業路線 314km、軌道従業員 78人、保有車両電動客車7、貨車8両。

沿革 大正14・11旭川駅・東川村間の軌道敷設特許を受け、

